

1 校内研究グランドデザイン2020

学校教育目標

じょうぶな子ども
よく考える子ども
思いやりのある子ども

校内研究のビジョン

公立プライド

友達と楽しく夢中になれる、学びがいのある学校
同僚と切磋琢磨し合う、働きがいのある学校
保護者・地域から愛され期待される、通わせがいのある学校

校内研究のテーマ

楽しい体育の授業の創造

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～

体育の「楽しい」授業

- ◆ 3つの視点による授業改善
- ◆ 単元・授業の流れの工夫
- ◆ 環境構成の工夫
- ◆ 年間指導計画の見直し

同僚性の構築

- ◆ 研究協議会の工夫（「Round Study」）
- ◆ 授業を見合い語り合う風土作り
- ◆ ホワイトボード・長机の活用
- ◆ 学年研の充実
- ◆ エッセイの共有による相互理解

各教科等の「楽しい」授業

- ◆ 新学習指導要領の具現化
- ◆ めあてと見通しの区別・充実
- ◆ 振り返り・まとめの指導の充実
- ◆ 「考えるための技法」の活用
- ◆ 専門性の向上と積極的な発信

2 校内研究の組織

研究推進部

◎研究主任 ○副主任

校長 副校長

◎ ○ ・ ・

1年

2年

3年

4年

5年

6年

低学年分科会

中学年分科会

高学年分科会

算数

音楽

図工

家庭

外国語

養護

専科分科会

3 校内研究の年間計画(案)

月	研究推進部		研究全体会		定例研究会		その他	
4月	2木 8水 22水	三部会(4月分) 三部会(5月分) 三部会(6月分)	14火	研究の進め方等	7火 14火 21火	学年研(体育計画立案) 学年研(総合計画立案) 学年研(体育計画立案)		
5月	9土	学習指導案検討①	27水	話題提供授業① 6年 (齋藤雄司先生)	12火 19火 26火	学年研(総合計画立案) 学年研(体育計画立案) 学年研(総合計画立案)	27水	暫定計画の提出
6月	3水 8月	三部会(7月分) 学習指導案検討②	17水	話題提供授業② 専科 (濱田絵美先生)	2火 9火 16火 23火 30火	なし 学年研 なし 学年研 なし		
7月	8水	三部会(9月分)			7火 14火	学年研 なし		
8月						※学年研の日をそれぞれ設定して実施する。		
9月	1火 2水	三部会(10月分) 学習指導案検討③	16水	話題提供授業③ 年 (先生)	1火 8火 15火 29火	なし 学年研 なし なし	1火	エッセイ締切 学習指導案提出
10月	14水	三部会(11月分) 学習指導案検討④	28水	話題提供授業④ 年 (先生)	6火 13火 20火 27火	学年研 なし なし 学年研		
11月	6金 11水 19木	学習指導案検討⑤ 三部会(12月分) 学習指導案検討⑥	18水	話題提供授業⑤ 年 (先生)	3火 10火 17火 24火	なし 学年研 なし なし	20金	紀要全体像周知
12月	16水	三部会(1月分) 評価検討	2水	話題提供授業⑥ 年 (先生)	1火 8火 15火 22火	なし 学年研 なし なし	18金	個人振り返り周知
1月	8金 13水	学習指導案検討⑦ 評価提案 三部会(2月分)	20水	話題提供授業⑦ 年 (先生)	12火 19火 26火	学年研 なし なし		
2月	17水	三部会(3月分)	24水	初任者研究授業	2火 9火 16火 22月	学年研 なし なし 初任者模擬授業	22月	個人振り返り締切
3月					2火 9火 16火	学年研 なし なし	15月	紀要完成予定

※保護者向けの授業公開や取組報告などについては、要検討。

4 校内研究のビジョンとテーマについて

「公立プライド」というビジョンを設定した理由（平成29年度の研究発表会リーフレットより）

- 公立学校は、地域からの信託を受けて、自信と誇りをもって教育活動を行う場でありたい。しかし、それが難しい時代になり、そのことは本校も決して例外ではない。そこで、普通の公立学校として、普通に質の高い教育活動を行うことができる学校、つまり、本校に関わる全ての人々が「公立プライド」をもつことができる学校を目指したいと考えた。それは、児童にとっては「学びがい」があること、教師にとっては「働きがい」があること、保護者・地域にとっては「通わせがい」があることを意味している。

「楽しい」というキーワードに込めた思い（平成29年度の研究発表会リーフレットより）

- 「楽しい」というキーワードは、従来の学校観の転換を迫るための重要なキーワードである。毎日通う学校は、「楽しい」に越したことはない。「我慢と頑張り」も大切だが、そのことは、「楽しい」ということ否定することではない。本校の考える「楽しい」とは、「意味の自覚と問い直し～何のためか分かる～」ということを指している。「楽しい」と感じる時には、自分にとっての意味が発生している。その意味をかみしめながら、目的に向かって主体的に活動することができる。だからこそ、学校は、「楽しくなければ学校じゃない」。

なぜ、「主体的・対話的で深い学び」なのか？（学習指導要領解説 第1章 総説より）

- 子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の質的改善により実現したい子供の姿は、「次世代型教育推進センター」による「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の成果を基に、ピクトグラムでイメージ化したものを後述する。

5 研究全体会までの動きと当日の流れ

学習指導案検討を中心とした動き

- 授業者を中心に、学年の教員が全員で学習指導案を作成する。基本的な流れは、以下の通り。

1	講師依頼を作成する。	研究主任	授業の1か月前まで
2	講師依頼をメールで講師に送付する。	研究主任	授業の1か月前
3	学習指導案を検討する。	学年	(随時)
4	学習指導案を分科会・研究推進部に配布する。	授業者	学習指導案検討日前日まで
5	学習指導案にコメントを入れる。	参加者全員	学習指導案検討日当日まで
6	コメントを基にして、学習指導案を検討する。	分科会・研推	学習指導案検討日当日
7	学習指導案などをメールで講師に送付する。	研究主任	授業の1週間前
8	学習指導案を印刷・配布する。	学年	授業の1週間前
9	夕会で授業の見どころなどを伝える。	学年	授業の直前の夕会
10	必要に応じて、事前授業を行う。	学年	授業の前日まで
11	本時にかかわる資料などを印刷・配布する。	授業者	授業の当日まで

- 学習指導案の配布後は、授業当日までに指導案をしっかりと読み込み、自分なりの課題をもって授業を見るようにする。（授業者自評と分科会提案は、平成28年度から廃止している。）
- 学習指導案の検討は、限られた時間の中で行うために、授業者は検討の前日までにC4 t hで指導案の

データを配布し、関係者は事前に印刷・目を通す・コメントを記入しておく。

授業当日の動き（全員参加の研究協議会のための工夫）

- 研究授業の意味の捉え直しについて、改めて共通理解を図る。
- 授業者の力量形成を図るとともに、参観者こそが1つの授業から多くを学ぶ場であることを確認するために、研究授業を「話題提供授業」として位置付け直すとともに、全員が参加し学び合うための研究協議会の方法を工夫する。
- 協議の在り方については、その都度、研究主任・研究副主任を中心に検討し、不断の改善を図る。
- 話題提供授業と研究協議会の時程は、現段階では、以下の通り。（13：00完全下校）

○13：20～14：05	話題提供授業
○14：05～14：25	移動・準備・くじ引き、個人の付箋記入
○14：25～14：40	ラウンド1（くじで決定したグループでの協議・ホストを決める）
○14：40～14：45	講師紹介
○14：45～14：55	ラウンド2（ホストを残して各グループに分散・ホストの説明・協議）
○14：55～15：05	ラウンド3（元のグループでの再協議・短冊に成果と課題をまとめ）
○15：05～15：25	ファイナルラウンド（短冊を出し合いながら全体協議）
○15：25～15：50	講師の先生による指導・講評
○15：50～16：00	授業者の振り返り、「授業改善宣言」の記入・提出・片付け

- 話題提供授業の見方の基本は、以下の通り。

○子供たちの輪の中に入ったり隣まで近付いたりして、内側から授業を見るように努める。
○授業が始まったら早めに焦点化し、中心的に見る子を決める。その子の言動などをノートなどに記録し、その後の付箋記入やグループ討議では、具体的な子供の名前を挙げて話ができるようにする。
○授業中の子供たちとの関わりは、授業の流れやその後の協議を損ねない範囲で、子供の求めなどに応じて、適切に行う。（積極的な指導などは避ける。）
○子供たちの発言や様子、教師の関わりなど、しっかりと記録をするようにする。指導案にメモをする程度では、その後の協議を有意義な時間にすることができない。ノートなどを用意する。

- 話題提供授業当日の研究推進部の仕事分担は、基本的には以下の通り。

A（授業をする分科会）	○研究推進、学習指導案検討・作成 ○反省会の設定・運営 ※場所や時間は、講師の都合による。
B（その右の分科会）	○「☆キラリ☆」と光っていた付箋の発見・分析 ○記録写真・HP用の概要紹介の作成 ※写真は担任に確認をする。概要紹介は起案して管理職の決裁をとる。
C（その2つ右の分科会）	○研究協議会の記録・まとめ ※協議等の内容を、自分の考えを入れて再構成しながらまとめる。 ○ホワイトボードの短冊整理
D（その左の分科会）	○付箋・模造紙・サインペン・短冊の印刷・準備・片付け ○くじの管理、グループ表示の準備・片付け ○「授業改善宣言」の整理・掲示
研究主任・研究副主任	○大型テレビ・講師の飲み物の準備・片付け ○全体協議までの進行管理・放送など ○校長室での講師接待など ○趣旨説明・講師紹介・全体司会 ○研究推進だよりでのまとめ ○裏研究推進だよりの原稿集約・まとめ ○概要紹介・本時案・協議記録のHPアップ

- 個人の付箋記入・グループ協議の方法は、以下の通り。

○3色付箋は、3つの視点に沿って、「楽しい」授業＝「主体的・対話的で深い学び」が実現されているかを、具体的な授業の事実、子供たちや教師の姿、発言、記述、表情、変容、関わりなどを根拠に、自分の意見をサインペンで記入する。（付箋には記名をする。） ※ピクトグラムは後述。

緑 →「主体的な学び」の視点

赤 →「対話的な学び」の視点

青 →「深い学び」の視点（「見方・考え方」に関わることは、ここに含む。）

黄 →本時以外の本単元に関わること、教科等の特質とは直接関わりのない授業一般のことなど

○ラウンド1では、成果と課題のスケールチャートの上にそれぞれが書いた付箋を出し合い、KJ法的手法を用いて似ているものでまとめるなどし、プロッキーで囲ったりキーワードを書いたりする。

○ラウンド1～3では、協議を可視化し、深めるために、個人のノートにメモをとること以上に、話し合いの内容や気付いたことなどを模造紙にどんどん書いて整理していくことを推進する。

6 校内研究のツールとシステム

3つの視点による授業改善

- 授業改善の視点として、以下の3つを設定している。これらに基づいて、単元づくり・授業づくりやその見直し、話題提供授業に対するグループ協議・全体協議を行う。

3つの視点	ピクトグラム一覧	
①「主体的な学び」の視点 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。	 興味や関心を高める	 粘り強く取り組む
	 見通しを持つ	 振り返って次につなげる
	 自分と結び付ける	
②「対話的な学び」の視点 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。	 互いの考えを比較する	 先哲の考え方を手掛かりとする
	 多様な情報を収集する	 共に考えを創り上げる
	 思考を表現に置き換える	 協働して課題解決する
	 多様な手段で説明する	
③「深い学び」の視点 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。	 思考して問い続ける	 知識や技能を概念化する
	 知識・技能を習得する	 自分の考えを形成する
	 知識・技能を活用する	 新たなものを創り上げる
	 自分の思いや考えと結び付ける	

単元・授業の流れの工夫

- 主体的な学びの姿である「運動の楽しさに気付き、興味関心を高め、課題の解決に向けて考えるとともに、学習を振り返りながら、課題を修正したり、新たな課題を設定したりする」児童の育成を目指し、1単元や1時間の授業の流れを見直し、領域ごとのおおまかな単元の組み立てや1時間の授業のおおよその流れをまとめた『松仙小体育授業の流れ（例）』を作成した。
- 『松仙小体育授業の流れ』は今年度から作成したものである。したがって、今年度の校内研究を進めながら適宜修正などを行い、よりよいものへとブラッシュアップしていきたい。

環境構成の工夫

- 教材を工夫したり、様々な運動の場を設定したりすることで、運動への興味関心を高め自己やチームの課題に応じた運動に取り組めるようにしていく。
- 研究1年目ということで、特定の領域にこだわらず、児童が楽しく運動に取り組めるように、研究推進や学年で話し合いながら教材や教具の工夫を進めていく。大田区や東京都都の体育部の取り組み、経験豊富な先生方の知恵など、多くの要素を踏まえ進めていくようにしたい。
- 新学習指導要領に新たに例示されたものや内容に示されたものなどは、全体で共通理解していきたい。特に第5・6学年の水泳「安全確保につながる運動」については、学校全体で共有できるようにする。
- 教材や教具のデータを校内研究学年のフォルダに蓄積していき、来年度にも活用できるようにしていく。

年間指導計画の見直し

- 前年度の年間指導計画を踏まえ、時期や時間を配慮した年間指導計画を作成していく。（例えば、鉄棒に取り組む時期などを統一するなど。）

体育の安全の作成

- 器械運動で注意することや、陸上運動で注意することなどを領域ごとに書き出し共通理解できるようにする。服装についても改めて全校で共通理解できるようにする。
⇒安全や服装・体育倉庫の整理については、体育部で行う予定。（研推・体育部・体育的行事委員会の3つで行う仕事を分担する）

児童の実態把握

- 4月と3月に児童が主体的に体育に取り組んでいるのか、実態調査を行う。内容については研究推進で話し合い、全体に周知する。また、体育における主体的な学びについての教員の意識を調べるために、教員向けのアンケート調査を実施する。

研究推進だよりの発行と個人のエッセイ

- 研究推進だよりは、次の2種類を発行する。（どちらも、およそ隔週～毎週の発行とする。）

- 「(名称未定)」…研究主任による発行。連絡事項、授業や協議会のまとめ、情報発信など。
- 「(名称未定)」…研究副主任による発行。研究協議会の議事録、リフレクションシートや付箋の記述のまとめ、個人のエッセイ、情報発信など。

- 自分の実践を振り返り、読み合い、互いの信念を共有するために、管理職も含めて全教員が、個人のエッセイを年に1回ずつ執筆する。
- 今年度のテーマは、「体育と私」とする。例えば、体育の授業づくり、子供の頃の体育の思い出、取り組んでいるスポーツや健康法、オリパラで楽しみなことなど。「自分を語る」ということを意識しながらA4半分程度で執筆する。5月～7月発行分は、その都度締め切りを設けるが、9月以降の発行分は、夏休み中に執筆することとし、一律で9月1日（火）に締め切り、定期的に発行する。
- 年度末には、平成29・30年度・令和元年度に実施した「実践に即した個人の振り返り」を行う予定である。

定例研究会の充実

- 2週間に1回程度（成績処理期間や学校行事前は除く。）、火曜日の16:30～16:45は、定例研究会（学年研、または、臨時の研究全体会）とする。体育と総合的な学習の時間についての話し合いを行う。

○学年研…年間指導計画や単元の活動計画の立案、学習指導案の検討、各学級での実践の報告などを行う。各学年・専科に、1冊ずつミニノート配布する。記録者を決めて、話し合われた内容をまとめ、研究主任・研究副主任・管理職に回覧する。また、このミニノートは、教員室後ろのホワイトボード付近に保管し、誰でも閲覧できるようにする。

日常的に授業を見合い、語り合うことの推進

- 全教科等で「楽しい」授業や「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、月1回の研究全体会だけではなく、日常的に授業を見合い、語り合っていくことが必要である。
- 授業観察の期間（7月・10月・2月）や学校行事がない月（5月・6月・1月）には、「授業見学推進月間（仮称）」などの工夫を行いたい。
- 授業を見合い、語り合うことこそ、自分の授業力を向上させる王道であり近道でもある。さらに、その取組は、切磋琢磨し合う同僚性を築き、働きがいのある職場を作ることにもつながる。

☆いつでも誰でもどの授業でも、教室をオープンにしよう！

★空き時間や低学年の6校時、ちょっと手の空いたときなどを使って、授業を見に行こう！

☆授業観察などの機会に略案を作ったときには、C4+hに流そう！

★日々の授業の様子や子供たちの姿、その日に見た授業を、教員室で話題にしよう！

☆教員室後ろのホワイトボードの活用を推進しよう！